

## 第92回二松學舎大学人文学会大会講演題目・研究発表要旨

日時 平成十七年十一月十九日(土)  
場所 柏沼南校舎1号館二〇五教室

### 講演

#### 『清文評註読本』・『二松詩文』について

二松學舎大学名誉教授 川久保 廣 衛 先生

#### 文学研究の一側面

——劇文学作品(謡曲)の場合——

二松學舎大学名誉教授 松 田 存 先生

### 研究発表

#### 《国文学》

#### 高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』論

文学部国文学科四年 長谷部 哲 平

一九八一年、第四回群像新人長編小説賞の優秀作となった『さようなら、ギャングたち』は、「現在までのところポップ文学の最高の作品」(吉本隆明氏)や「脚光の中に躍りでた新しい文学の豊かなつ

ぼみ」(瀬戸内晴美氏)という評価を受けた、高橋源一郎のデビュー作である。

「ぼくの書いた『さようなら、ギャングたち』は、最初の一行から最後の一行まで全部で、「詩あるいは言葉は、さしあたって現在何か」という非常に限定された質問への、ぼくの答えなのです」と高橋源一郎自身は述べているが、このテキストはこれまでにさまざまな解釈をされ、多様に論じられてきている。その中には、高橋源一郎の学生運動と拘置所生活、失語症という体験をふまえた「転向小説」論や、詩と小説とをめぐる考察、ポストモダン文学としての考察などがある。

本発表では、テキストをポストモダン文学としてとらえるとともに、その語り手である「私」を「記憶」・「歴史」という面から分析していき、テキストにおける「語りの構造」を考察していく。

#### 《中国学》

#### 方孝孺「深慮論」考

日本大学櫻丘高等学校非常勤講師 濱 野 靖 一 郎

明初の人、方孝孺(一三五七―一四〇二、字は希直、又は希古。